

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和5年6月

番号	事業概要・事業主体等 (事業概要) (事業主体の根拠)	事業の進捗状況 (事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等 (事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	事業効果 (費用対効果) (コスト縮減・代替案等) (その他の効果)	環境への配慮 事業を中止した場合の影響 (生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	今後の県の方針案 (継続・中止)
1	<p>(事業名・地区) 一般県道斐川上島線 社会資本整備総合 交付金事業 武部2工区(改良)</p> <p>(事業位置) 出雲市斐川町三絡 ～斐川町阿宮</p> <p>(事業費) 6,529,000千円</p> <p>(事業概要) 本事業は出雲市 斐川町三絡から斐 川町阿宮における 延長2.3km区間の バイパス整備を行 うものである。</p> <p>(事業主体の根拠) 道路法第15条</p> <p>(再評価区分) ②事業採択後10年 を経過している継 続中の事業</p> <p>(担当部課名) 土木部道路建設課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度:2014(H26)年度 用地着手年度:2015(H27)年度 工事着手年度:2015(H27)年度 完了予定年度:2026(R8)年度 経過年数:10年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率(全体):81% // (用地):100% // (工事):80%</p> <p>※事業費ベース 2015(H27)年度よりトンネ ル工事を含めた一部工事に着 手し、現在80%まで進んでお り、2026(R8)年度全線供用予 定である。</p>	<p>(事業導入の経緯・目的) 本路線は、斐川地域と雲南地 域を結ぶ路線であるが、本事業 区間は幅員狭小で線形も悪いた め、大型車の通行や車両の離合 が困難な状況となっている。 道路改良(バイパス整備)を 行うことで、斐川地域と雲南地 域の物流の効率化、道路利用者 の利便性向上を図ることを目的 とする。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 周辺には斐川ICや斐川西工 業団地があり、企業からも早期 整備を望む声が高い。 バイパス整備により未改良区 間を解消し、地域内アクセスの 利便性の向上や物流の効率化を 図る。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画 の熟度) 「出雲地域幹線道路改良整備 促進期成同盟会」より早期の整 備促進要望があるなど、地元か ら早期の供用開始が期待されて いる。</p>	<p>(費用対効果) B/C=0.98</p> <p>(コスト縮減・代替案等) ①事業規模の妥当性 県条例により、地域区分 と計画交通量から、道路規 格3種3級、設計速度 50km/h、道路幅員は2車線 (3.00×2)と路肩の全幅 7.5mとした。</p> <p>②事業の妥当性 山陰道斐川ICに直結 することで利便性が高い 路線となるようルート決 定した。</p> <p>③コスト縮減への取り組 み 掘削残土やトンネルズ リを盛土材へ流用するこ とにより、工事費を軽減し ている。</p> <p>(その他の効果) 通行車両の安全性の向 上が図られる。雲南方面か ら斐川西工業団地やイン ターチェンジへのアクセ スが向上する。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 環境配慮の取組状況 ・共通配慮事項 別添『取組シート』のとおり</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 道路幅員が狭く線形が悪い状態 が解消されず、離合困難の状態が続 くことになり、交通の安全が確保で きない。 また、用地買収は完了しており、 中止した場合、用地提供者や地元住 民の理解が得られない。</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続の理由) 本事業により円滑 で安全な交通の確保 や、インターチェン ジ等へのアクセス改 善による利便性向上 が図られる。 これまで改良した 区間の効果発現のた めにも早期の全線改 良を図る必要がある。</p>

※環境への配慮欄の『個別配慮事項』は、『環境への配慮』取組シートの個別の配慮事項を概略で記載する。

一般県道 斐川上島線 武部2工区

【路線の概要】

本路線は国道9号荒神谷交差点（出雲市斐川町直江）から森坂大橋（出雲市上島町）に至る延長約8kmの県道であり、斐川地域と雲南地域を最短で結ぶ重要な路線である。また、周辺には斐川ICや斐川西工業団地があるなど、産業振興や地域振興に大きく寄与する路線である。

【事業の概要】

本事業区間（出雲市斐川町三絡～出雲市斐川町阿宮）の現道部（武部峠）は幅員狭小で線形も悪いため、大型車の通行や車両の離合が困難な状況となっている。

斐川地域と雲南地域の物流の効率化や、道路利用者（沿線住民及び工業団地等への通勤者など）の利便性向上を図るため、約2.3kmの道路改良（バイパス整備）を行うものである。

【位置図】

